

各小・中・特別支援学校長
難聴・言語障害教育担当教諭
特別支援教育担当教諭
関係 係 機 関

各位

日本言語障害児教育研究会
会長 習田 糸広

第52回 日本言語障害児教育研究大会の案内

陽春の候、皆様方にはますますご健勝のこととお慶び申し上げます。
さて、第52回日本言語障害児教育研究大会を、下記の通り開催いたします。例年参加された先生方から、多種の講座の開設希望がありますが、二日間での開催のため、同一時間帯に【A】【B】【C】の講座を設け、その中から選択できるように企画しました。講義室の関係により定員制となりますが、多数のご参会をお待ちしております。

要 項

1. 日 時 2019年8月5日(月曜日 12:05～17:35), 6日(火曜日 9:20～16:00)
2. 会 場 国立オリンピック記念青少年総合センター(<http://nyc.niye.go.jp/>)
〒151-0052 東京都渋谷区代々木神園町3番1号
3. 主 催 日本言語障害児教育研究会(<http://nichigenken.jp/>)
4. 後 援 文部科学省(申請中)
5. 参加方法・研修費および「基礎からわかる言語障害児教育」について
 - 参加資格 難聴・言語障害教育関係者及び関心のある方
 - 大会研修費 9,000円(8/5の一日の参加は5,000円、8/6の一日の参加は4,000円)
 - 参加定員 A講座 250人 B講座 160人 C講座 80人
講座の選択が可能のため、1Aが250人、1Bが160人、1Cが80人ということではありません。参加人数によっては、1Bが250人になることもあります。希望の講座はお早めにお申し込みください。
 - 昨年度発刊の「基礎からわかる言語障害児教育」(各講座のサブテキストとして活用できます。)大会参加された方には、定価3,780円を特別割引価格3,000円で当日受付にて販売します。
 - 申し込み期限 7月5日(金)。なお、講義室のいずれかで定員になり次第締め切ります。

6. 申し込み方法

- [1] 往復はがきでの申し込み(返信欄文面には何も書かないでください。)返信宛名欄に、返信先の〒・住所・氏名を、往信文面欄に下記の項目をご記入の上送付してください。
 - ①氏名(ふりがな) ②連絡先の〒・住所・TEL・FAX ③所属名・TEL・FAX ④難言経験年数
 - ⑤希望する講座【1～6-A, B, C】を、右記の記入例のように選択し記入してください。
 - ⑥8/5(月)に会場の宿泊施設を利用される方は、「宿泊希望」と記入してください。個室D棟(バス・トイレ付き)にて、男性9人、女性50人を先着順に受け付けます。宿泊代は、3,500円(食事別)です。男or女を記入してください。宿泊定員になり次第締め切ります。
 - ⑦公費で研修費を支払われる方は、振り込みの都合上、公費参加と記入してください。
- [2] [1]と同様に日言研のホームページ(<http://nichigenken.jp/>)からも申し込みます。申し込み画面から、あるいは申し込みFAXをプリントアウトしてFAX(下記の番号に)で申し込んでください。また、複数での参加の場合、まとめてFAXで申し込んでも受付します。
- [3] 申し込み受付確認後、返信(はがき、メール、FAXの返信等)にて研修費等の振込先を連絡いたします。なお、公費振込の方は、宿泊・書籍代は「当日払い」と記入し、当日受付にてお支払いください。また、定員に達した場合は、参加できない旨の連絡をいたします。
- [4] 研修費等の振込みが確認されましたら、順次「講座受講証」を会場案内図と共に送付いたします。
- [5] 難言経験年数につきましては参加者のニーズに合わせた講座運営を企画しますので記入してください。
- [6] ホームページから参加申し込みされて3日、はがきでの申込および研修費を振り込まれて10日以上返事がない場合は、その旨をハガキかFAX、メールにて再度連絡してください。また、学校からのメールの申し込みでは、届かないことや届いても返信ができない場合(セキュリティソフトのためやメールボックスが一杯のため)がありますので、確認返信メール(返信がすぐ届きます)や振込先の案内メールが届いたかどうかの確認をしてください。個人のプロバイダー等のメールの方が届きやすいです。
- [7] キャンセルや問い合わせはメール(nichigenken@gmail.com)やFAXにて連絡してください。宿泊の申し込みの状況や定員に達しているかどうかを日言研のホームページにその都度掲載します。

講座 記入例
1 A
2 B
3 C
4 A
5 B
6 A

- ハガキの送付先 〒276-0041 千葉県八千代市麦丸1136-2 櫻井 正二郎
(問い合わせ先) FAX番号 047-409-0512 (FAX専用です)

7. 研 修 日 程 〈講義室は当日お知らせしますが、6月末頃、HPに掲載します。〉

8 月 5 日 (月曜日) 受付 11:30から

〇 開 会 式 (12時05分~12時15分) 会場; 当日受付にてお知らせします。

研究会会長挨拶、大会オリエンテーション (各会場にて)

【12:15~13:45】

1 A 「言語発達遅滞の評価と支援」 東京学芸大学 藤野 博
言語発達遅滞は様々な原因で起こります。本講義では、それらの中で、ことばの遅れのみ問題を生じ、読み書き障害の原因にもなる「特異的言語発達障害」や自閉スペクトラム症を背景とする語用や会話の問題などに焦点をあてます。そして、それらの障害のことばの発達の特徴、アセスメントと指導・支援・配慮の方法について概説し、余暇の中でのコミュニケーション支援の例なども紹介します。

1 B 「吃音の基礎知識と新たな視点」 東京学芸大学 伊藤 友彦
吃音のある子どもを理解し、適切に支援するためには、従来研究成果に基づく基礎的な知識を持っていることが不可欠です。この講座では、これまでの研究によって蓄積されてきた吃音の基礎知識についてお話しします。また、子どもたちの指導のためには新しい知見もおさえておく必要があると思われる。今回は最近の知見として吃音のある子どもや成人の話すメカニズムに着目した研究を紹介します。

1 C 「子どもの発達を促す関わりことば」 公益社団法人 発達協会 湯汲 英史
子どもが発達する目的ですが、「自分で考えて判断し、適切な振る舞いが取れるようになること」とされます。子どもが判断するときには、基準が必要となります。ところが子どもは、大人のような判断基準を持たずに生まれてきます。大人が子どもに伝えるべき、社会性の育ちと密接に関係する「判断基準=関わりことば」について紹介します。

【14:10~15:40】

2 A 「聴覚障害児の評価と支援」 大東文化大学 齋藤 友介
難聴児をとりまく社会的状況は1990年代から世界的にも激変し、私たちは激動の時代に身を置いています。この講義では「新生児聴覚スクリーニングの普及」「人工内耳装用児の増加」「手話の(再)活用」「インクルーシブ教育」「特別支援教育」・・・といった、難聴児に携わる者が避けて通れないそれ ぞれのキーワードを踏まえつつ、これからの難聴児への教育について考えていきたいと思ひます。

2 B 「吃音児の理解と支援の実際」 金沢大学 小林 宏明
吃音のある児童生徒の指導・支援では、児童生徒を包括的に理解した上で、吃音の困難の緩和・軽減のみならず、吃音と折り合いをつけながら自己実現を図る必要があります。また、児童生徒への直接的な支援だけでなく、保護者や学級担任と連携して行う家庭や学校の環境調整も必要です。本講義では、具体的な事例に基づき、これらについて考えたいと思ひます。

2 C 「言語発達遅滞の支援の実際」 東京学芸大学 藤野 博
言語発達遅滞の児童生徒への支援は、アセスメントに基づく個別の指導と通常の学級での合理的配慮などからなります。本講義では、LCSA (学齢版言語・コミュニケーション発達スケール) を中心とするアセスメントの具体的な方法について解説します。そして、アセスメントの結果に基づく個別の指導計画の立て方、通常の学級の授業の中での配慮の仕方などについて事例を挙げながら紹介します。

【16:05~17:35】

3 A 「構音障害の評価と支援および教材・教具の工夫」 元西東京市立保谷小学校 中村 勝則
構音の指導は、適切な評価に基づいた発語器官の動きを育てる「口作り」の指導と正しい発音と誤った発音とを素早く正確に聞き分ける力を育てる「耳作り」の指導、そして、これら二つの指導の成果を土台に正しい発音が日常の会話で自然に使えるようにする「音作り」の指導で構成されています。子どもの改善意欲を高めながら、どのように指導を展開するのかを具体的な指導法例を通してお話ししたいと思います。

3 B 「聴覚障害児の支援の実際」 筑波技術大学 長南 浩人
発達の早期に聴覚障害を有した子どもの多くは、言語や認知、学力、社会性など精神発達の多様な面で健聴児とは異なる育ちを見せるといわれています。本講座では、その具体例を通して何育ちの課題であるのかを明らかにし、またそれに対して心理的な考察を加えることで、聴覚障害児が見せる育ちの「なぜ？」を考えます。さらに、これを踏まえた授業デザインと日々のコミュニケーションの在り方を検討します。

3 C 「難言教育における子どもとの関わり及び教室経営の基礎・基本」 国立特別支援教育総合研究所 牧野 泰美
インクルーシブ教育システムの構築が進められる中、多様な学びの場の一つとして、きこえとことばの教室は重要な役割を担っています。きこえとことばの教室の担当者に求められること、きこえとことばの教室の担当者が大切にすべきことは何でしょうか。ここでは難聴・言語障害教育における子ども理解や子どもとの関わりの視点、子どもを支える上で重要な教室経営の基礎・基本についてお話しします。

8月6日(火曜日) 8/6から参加の方の受付 9:00から

【9:20~10:50】

4 A 「事例検討の意義と進め方」 元有明教育芸術短期大学 羽田 紘一

本講座は、演者が提供する事例に基づき、「短縮事例法」による事例研究の演習を行います。「短縮事例法」は、参加者全員が自分の意見をもって検討に参加できる方法で、少人数でも多人数でも行える実際的な方法です。言語障害児教育においては指導経過の検証を行いながら指導を進める必要があります。「短縮事例法」を活用して指導効果を上げてください。

4 B 「側音化構音・口蓋化構音の評価～歪み音の理解と聞き取り」 帝京平成大学 山下 夕香里

側音化構音や口蓋化構音は歪み音なので慣れていないと聞き取りが難しく、指導で悩まれる先生方が多いのが現状です。いろいろなお子さんの発音の動画を見ていただき、判定のポイントや異常な舌の動きの観察法についてお話しします。はじめての先生方も是非ご参加下さい。

4 C 「言語発達を支える条件と乳幼児期の発達」 國學院大學 石川 清明

乳幼児期の言語発達は、中枢神経系をはじめ、身体発育、運動機能、知的発達、情緒の分化、社会性の発達など、ほぼ全ての発達の側面と相互に関連しながら急速に発達する特徴があります。その一方で発達上の問題もこの時期から見られはじめ次第に拡大します。言葉を中心に発達の諸側面相互の関連や言語発達の条件への理解を深め、幼児ならびに保護者を対象にした指導のポイントを考えてみます。

【11:15~12:45】

5 A 「発達障害児の理解と支援」 船橋市立船橋小学校 大山 恭子

発達障害のある子どもは、同じ障害であっても困り感人はそれぞれです。そのため、効果的な支援を行うためには、子供の特性を把握し、その子供にあった手だてを考えていく必要があります。この講座では、障害の特性とつまずきに応じた様々な支援方法や、学級担任や保護者、医療との連携のポイント等についてご紹介します。

5 B 「側音化構音・口蓋化構音の指導～舌を平らにする方法」 帝京平成大学 山下 夕香里

側音化構音や口蓋化構音のお子さんは、発音時に舌の奥がもりあがり、前に出そうとすると細長く緊張します。舌を横に広げて平らに保ち、舌の横の感覚や舌先のコントロール性を高めると音の指導がやりやすくなります。舌のトレーニングを実際に体験していただきます。鏡、舌圧子、ストロー(細いもの)、ペンライトなどをご用意ください。一緒に練習してみましょう。

5 C 「ことばの育ちを支援する臨床相談の実際」 國學院大學 野本 茂夫

本講座は、幼児のことばや聴こえ、人とのコミュニケーションに関わる悩みや問題の支援を学びます。幼児期のことばの育ちは、多様な要因が関係し合い、様々な発達の影響を受けます。そのため幼児のことばの相談では、子どもがより良く育つこととそのための子育て支援も視野に入れた取り組みが必要です。講義では、具体的なことばの問題事例の検討などを交えて総合的にことばの臨床相談を学びます。

○ 【12:45~】次回大会のお知らせ

【14:00~16:00】

6 A 「ことばの教室運営における諸課題の解決に向けて(ワークショップ)」(先着順80人)

國學院大學 石川 清明・野本 茂夫

ことばの教室は、様々な課題を抱えながらも教室担当者の尽力により成り立っています。課題解決に向けて、これまでの大会で実施したアンケートで記入の多かった「指導上の悩み、経験年数、少数担任、研修、予算、保護者対応などの課題」と「地域別や教室規模別による課題」をテーマに2部構成のワークショップを企画しました。情報収集や意見交換、ネットワーク作りの場としてもご活用ください。

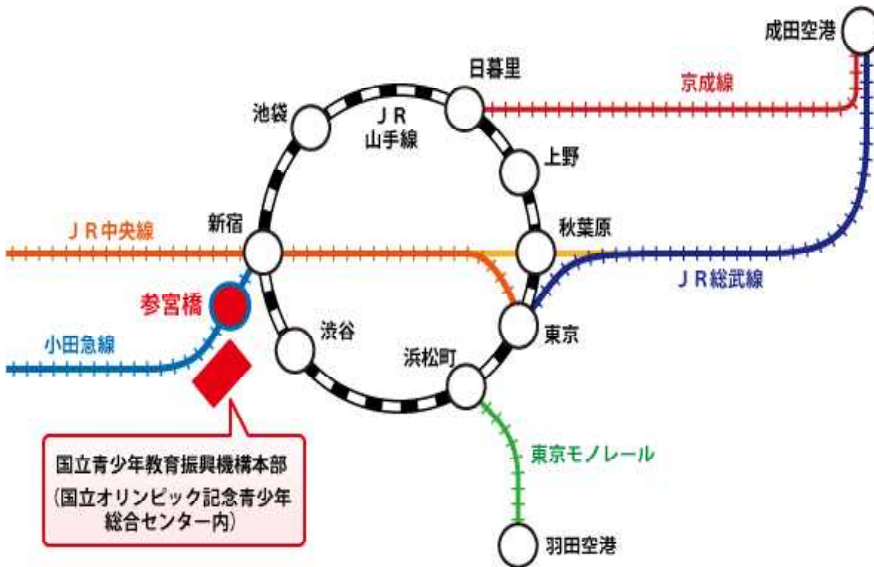
○ 閉会式 【16:00~16:05】次回大会のお知らせ

8. 備考

- ・市役所や学校等からメールで申し込みされた場合、「nichigenken@gmail.com」のWebメールでは返信ができないことがあります。そこで返信は、「nichigenken@gmail.com」と「ss3sakurai@ybb.ne.jp」の二つのメールアドレスから振り込み等の連絡をする予定ですのでご了承ください。
- ・申し込みで頂いた個人情報、大会受付やその連絡以外には使用しません。
- ・振り込み後の研修費の返金はできません。都合により参加できなかった方には、大会資料集を送付いたします。あらかじめご了承ください。なお、本人が参加できない場合は、代理人の方が参加できます。ただし、宿泊のキャンセルでの返金は、7月20日(土)まで受け付けます。
- ・公費振り込みをする上で、請求書等の書類が必要な方は、会計処理の都合上早めにご連絡ください。また、市役所等の振り込みの場合、個人の振り込みとならないように担当者と相談してください。
- ・講座受講証を返送するときに、会場全体の詳しい案内図(次頁「参宮橋より」地図の正門から受付まで)、センター棟(講義室)の見取り図を併せて送ります。
- ・当日はセンター棟4階416号室の前で受付をしています。各講義室の一覧は、当日配布の大会資料集に記載されます。なお、講義室一覧は6月末にはホームページにてお知らせできます。
- ・上記プログラム(講師、テーマ等)は予告なく変更される場合があります。変更等は、ホームページに掲載しますので、ホームページの最新情報を確認してください。

9. 会場案内(下記案内図は会場のホームページより)

【鉄道案内図】



■ JR中央線新宿駅より
小田急線各駅停車乗り換え
参宮橋駅下車徒歩約7分
※新宿乗り換えは少し時間
がかかります。

■ 地下鉄千代田線
代々木公園駅下車(代々木
公園方面4番出口) 徒歩約10
分

■ 羽田空港から
東京モノレール浜松町駅
JR山手線新宿駅乗り換
え参宮橋駅下車徒歩約7分

■ 成田空港から
JR総武線 成田エクスプレ
ス約80~90分新宿駅乗り換
え参宮橋駅下車徒歩約7分

■ 京王バス
新宿駅西口(16番)より代々木
5丁目下車
※バスなどの発番線は工事
等で変更になる場合があり
ます。
渋谷駅西口(40番)より代々木
5丁目下車ます。

※会場の案内図の詳細は、会
のホームページ [http://ny
c.niye. go.jp/](http://ny
c.niye.go.jp/) をご覧
ください。
宿泊のD棟についても、詳
しく掲載されています。施
設内容等をご覧ください。

※会場に有料駐車場(車両出
入口;参宮橋地図より)があ
りますが空きは大変少ない
です。周辺地図に示しまし
たように有料の代々木公園
駐車場があります。

※会場までのタクシーは、JR
新宿駅西口からが便利です。
また、京王バスが正門近く
に停車しますので便利です。

※会場での宿泊につきましては
、大会運営の都合上8月
5日(月)の一日です。会場
の他に、新宿や渋谷駅周辺
にも多くのホテルがありま
す。早めに最寄りのホテル
にお問い合わせください。

※宿泊や会場の運営等につい
ての問い合わせは、センタ
ーではなく日言研事務局に
お願いします。

【周辺地図】



参宮橋からの【歩道橋】を使った経路



参宮橋からの【横断歩道】を使った経路

